



日頃の備えと避難時の心得

市から避難勧告や避難指示(緊急)などがあった場合には、ただちにハザードマップに掲載してある避難所に避難しましょう。避難の際は、自分で判断し自分の身は自分で守る「自助」、近隣地域で声をかけあい助け合う「共助」を基本とし、余裕を持って早めの対応を心がけてください。

避難場所を確認



家族で防災についての話し合いをしましょう。家族がバラバラになった時の連絡方法や、集合場所などを決めておいたり、自宅地区の避難所や避難経路を実際に歩き、危険な箇所がないかをチェックしてみましょう。

避難する前に



避難時の持ち物は必要最低限とし、非常持ち出し品は事前に用意しておきましょう。避難する前にガスの元栓を閉め、電気のブレーカーを落とし、親戚や知人などに避難する旨を連絡しておきましょう。

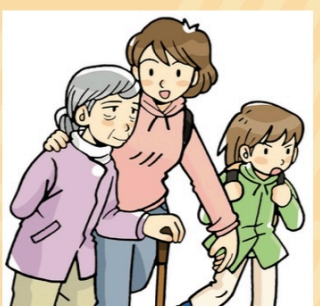
正確な情報収集と自主的避難を



テレビ・ラジオ、緊急速報メールなどで最新の気象・災害情報を入手しましょう。避難勧告や指示がある場合はもちろん、危険を感じた場合にも、自主的に避難準備を始めましょう。

助け合って避難を

外出先では係員の指示に従う!



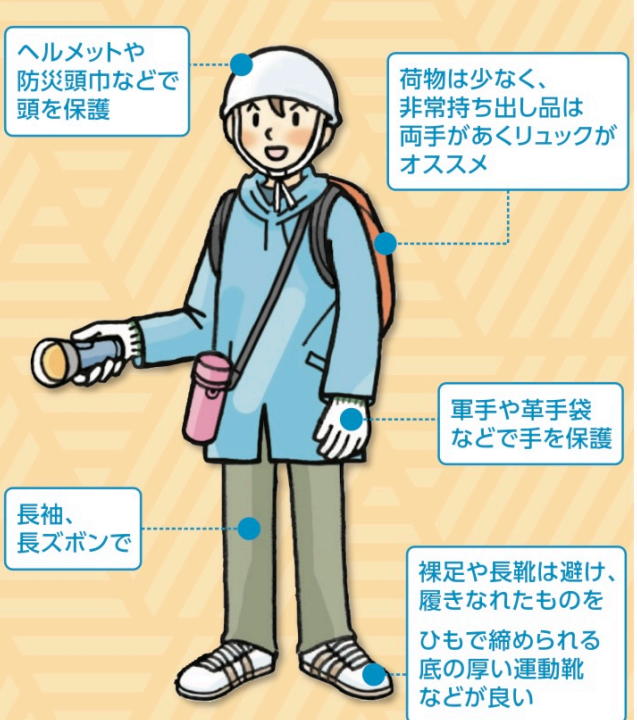
できる限り1人だけでの避難は避けましょう。お年寄りや子ども、病気の人などは避難に時間がかかる場合があり、早めの避難が必要です。家族だけではなく、近所の人の避難にも協力しましょう。

車での避難は控える



避難の原則は徒歩です。自動車での避難は緊急車両の妨げや渋滞等のおそれがあるため、できる限り控えましょう。また、自動車を堤防や道路に放置しないようにしましょう。

動きやすい服装で避難を



ヘルメットや防災頭巾などで頭を保護

荷物は少なく、非常持ち出し品は両手があくリュックがオススメ

軍手や革手袋などで手を保護

長袖、長ズボンで

裸足や長靴は避け、履きなれたものをひもで締められる底の厚い運動靴などが良い

安全に避難する



塀ぎわ、狭い道、がけや川のそばは避けて避難しましょう。地震の際は余震に注意し、落下物やガラス片、自動販売機などにも気をつけ、垂れ下がった電線には触れないようにしましょう。